

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 16 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24530151

研究課題名(和文) 東欧・中国の民主化とトクヴィルおよびシュンペーターのデモクラシー論

研究課題名(英文) Democratization of Eastern Europe and China and Tocqueville's and Schumpeter's Theories of Democracy

研究代表者

松本 礼二 (Matsumoto, Reiji)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：30013022

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：トクヴィルおよびシュンペーターのデモクラシー論が、ポスト・社会主義体制の民主化過程を理解するのにどこまで有効かを検証し、二つの国際シンポジウム、「トクヴィルとポスト共産主義体制の民主化 東欧と現代中国」(2013年3月)、「トクヴィルと東アジア 受容と有意性」(2015年9月)を行った。前者の記録は『政治経済学会ニューズレター』5号(2013年12月)に掲載され、後者の記録はいくつかの英文報告とともにTocqueville Reviewに掲載予定である。

西欧社会の歴史的発展に即して形成された政治理論、特にトクヴィルのデモクラシー論が非西欧社会の民主化の考察に有用であることが確認された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to examine the relevance of Tocqueville's theory of democracy and Schumpeter's for considering the problems of post-Communist democratization in Eastern Europe and China. As a result of the research, we confirmed that these theories of democracy, which had been developed through the historical experiences of Western Europe and North America, are applicable to non-Western cultures. Especially, Tocqueville's theory of democracy and revolution invites a new interpretation in the light of the progress of democracy in the contemporary world of globalization.

These research results were made public at the two international conferences we held, "Tocqueville and Post-Communist Democratization: Eastern Europe and China," March 2013, and "Tocqueville and East Asia: Reception and Relevance," September 2015. Several papers submitted to the latter will be published in a coming issue of the Tocqueville Review.

研究分野：政治学

キーワード：デモクラシー トクヴィル ポスト社会主義 東ヨーロッパ 中国 シュンペーター

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は多年トクヴィル研究に携わり、トクヴィルの政治思想を通して現代デモクラシーの諸問題を検討してきた。ところが、冷戦終結とグローバル化の進行は、もっぱら西欧デモクラシーの歴史的展開との関連でトクヴィルの政治理論を考察してきた従来の研究動向を大きく転換せしめ、地球規模で進行しつつある民主化を視野に入れた再検討が始まりつつある。非西欧世界におけるトクヴィルへの関心の高まりは、社会主義体制崩壊後の東欧諸国に顕著であったが、近年中国でトクヴィルの翻訳・出版、欧米の研究紹介が相次ぎ、グローバルな視点に立ったトクヴィルのデモクラシー論の検証を促している。

研究代表者はトクヴィル研究における近年のこうした動向に着目し、既にいくつかの著作においてこれを論じ、日本のトクヴィル研究者の立場から発信を試みてきた(松本礼二『トクヴィルで考える』2011年、A. Craiutu & S. Gellar, ed., *Conversations with Tocqueville*, 2009)が、特に中国におけるトクヴィルへの関心に触れて、より本格的に問題に取り組むべく、本研究プロジェクトを開始したものである。

## 2. 研究の目的

本研究の第一の目的は、東欧旧社会主義諸国の民主化及び現代中国の政治動向の中でトクヴィルのデモクラシー論や革命論がどのように受容され、リファーマーされているかを実証的に明らかにすることである。比較の対象として、現代デモクラシーの古典理論としてトクヴィルと並び参照されることの多いジョゼフ・シュンペーターのデモクラシー論の受容と影響についても同じ文脈で検討した。

第二の目的は、以上の検討を通じて、トクヴィルやシュンペーターのデモクラシー論がグローバル化の進行する現代におけるデモクラシーの諸問題を考えるのにどこまで有効かを検証することである。元来西欧社会の、それも19~20世紀の歴史的経験に即して形成された政治理論が非西欧世界の現在進行形の政治変動の理解にどこまで資するか、この検討は思想史研究からする現代政治論や比較政治学への貢献として有意義な課題である。

第三に、中国におけるトクヴィルという問題に関しては、西欧キリスト教社会とは全く異なる東アジアの歴史と文化を考慮する必要があり、この点では同じ東アジア文化圏に属しながら、民主化においてもトクヴィル受容についても先行する歴史を有する日本と比較することが有用であろう。研究代表者は日本のトクヴィル研究者として「トクヴィルと日本」問題について既にいくつかの論考を

著わしているが、中国、韓国を含む東アジア全体を視野に入れることによって、アジア発のトクヴィル研究への寄与を広げることは意義深い。これが本研究の第三の目的である。

## 3. 研究の方法

本研究が基本的に文献資料研究であることは言うまでもない。ただし、トクヴィルおよびシュンペーターのデモクラシー論についての理論的、思想史的検討と現代の政治変動、それも東欧と中国ないし東アジアという歴史と文化を異にする地域のそれについての実証研究を結び付ける必要がある。そこで、研究代表者を中心にトクヴィルとシュンペーターのデモクラシー論についての共通理解を深める一方で、東欧政治、中国政治の専門家たる研究分担者(林忠行、石井知章、青山瑠妙)に報告を求めて、ポスト社会主義の民主化の条件に付いて検討を重ねた。研究初年度はもっぱらそのための研究会を続け、文献資料の収集に努めた。

以上の研究実績を前提に、初年度の終わり(2013年3月)に「政治経済学会」の特別セッションとして、“Tocqueville and Post-Communist Democratization: Eastern Europe and Contemporary China”と題する英語のコンファランスを行った。この会議は米国におけるトクヴィル研究の第一人者J. T. シュライファー教授が早稲田大学に集中講義に訪れた機会をとらえて企画したもので、同じく米国のトクヴィル研究者でルーマニア出身のA. クライウチュ教授をも招く予定であったが、予期せぬ事情によって同教授は来日できなかった。ただし、東欧民主化の諸問題をトクヴィルの視点から考察する興味深い英文ペーパーの提供を受け、また李強北京大学教授によるペーパーも提出され、充実した討論が行われた。その記録は「政治経済学会ニューズレター」5号(2013年12月)に掲載されている。

第二年度は重点を中国に移し、現代中国におけるトクヴィル受容、特にその革命論への関心の高まりの背景について検討を重ねた。研究分担者ではないが、日本に長期在住して現代中国における外来思想の受容について日本語で多くの論考を著している王前東京大学特任准教授に研究会メンバーに加わってもらい、多くの専門的知見と情報を得た。東欧民主化との関連では、2014年2月に研究代表者および分担者石井知章がチェコ、ポーランドを中心に資料収集の海外出張を計画したが、代表者は急病のため出張を中止せざるを得なかった。

第三(2015)年度前半は研究代表者の病氣療養のため事実上活動を中断、研究再開後は、焦点を中国、東アジアの近代化、民主化に定め、トクヴィルの政治理論のこの地域における受容と有意性を検討し、研究のとりまとめに入った。トクヴィルの地方自治論の観点か

ら中国の民主化の可能性を論じている王建功中国政法大学教授を招く(2015年2月)など、研究会を重ねたうえで、研究期間を延長し、2015年9月に国際会議“Tocqueville and East Asia: Reception and Relevance”を開催した。中国から任軍鋒復旦大学教授、韓国から徐炳勲崇実大学校教授を招き、日本側は研究代表者松本礼二、分担者渡辺浩、それに王前東大特任准教授が報告し、フランスのトクヴィル研究を牽引するF. メロニオ・パリ大学名誉教授を討論者として招き、本研究プロジェクトを総括する充実したコンファランスとなった。その記録はいくつかの報告と合わせ、雑誌 *Tocqueville Review* の近刊号に掲載予定である。

#### 4. 研究成果

本研究プロジェクトに関係する研究代表者、分担者の個別業績については次項を参照。ここでは研究の総括として2015年9月に行った前述の国際会議“Tocqueville and East Asia: Reception and Relevance”に提出されたペーパー、そこでの討論を中心に研究成果の要点を記す。

任報告は1949年建国以降の新中国の歴史を段階的に特徴づけ、専制から民主化への可能性をトクヴィルの理論に引照して検討するものであった。徐報告は現代韓国における民主派政治指導者の台頭とその挫折をトクヴィルの観点に関連させて論じた。これに対して、渡辺報告はトクヴィル自身が自由なき民主社会の一つの典型を伝統中国に見出しており、それが中国認識として妥当性を有する点を強調した。松本報告は封建制や身分制において中国よりヨーロッパに類比される歴史的背景を有する日本では、明治初期や戦後の変動期にトクヴィルが積極的に受容されたと論じた。これらの報告および討論を通じて、同じ儒教文化圏に属すとはいえ、日本と中国、韓国との文化的伝統や社会構造の相違は大きく、それがトクヴィルの受容についても、またその理論の有意性についても無視しえぬ違いを生み出すことが確認された。

現代中国におけるトクヴィルへの関心の増大については、ポスト社会主義体制の模索が背景にある点で東ヨーロッパの先例と比較し得るとしても、中国共産党上層部(特に王岐山中央委員会政治局員)の上からの指導に端を発しているなど、イデオロギー状況の違いも大きい。1980年代の「改革・開放」の時期に『アメリカのデモクラシー』はすでに翻訳、紹介されており、アカデミックなトクヴィル研究は中国にも蓄積されている。ただし、今日のイデオロギー状況の中でのトクヴィル受容とそうした学問的研究がいかなる関係に立つかはなお不確定と言わざるを得ない。研究分担者石井知章は近代中国における自由主義思想の再評価に努めているが、

この忘れられたイデオロギーにおいてもトクヴィルの存在はほとんど認め難い。

なお、トクヴィルとの比較で検討したシュンペーターのデモクラシーの概念については、複数政党制や自由、公正な選挙という制度的規定が前面に出るだけに、ポスト社会主義の政治的側面を考える参照理論としては限界がある。この点は東欧の民主化についても、現代中国についても同様であり、資本主義への経済体制の移行に関してシュンペーターの経済理論(「創造的破壊」の概念やイノベーション理論)がどちらの場合にも積極的に導入されたのと顕著な対照をなしている。

以上、東アジアにおけるトクヴィルの政治思想の受容や、その有意性の検討は、トクヴィルのデモクラシー論それ自体の読み直しを促し、トクヴィル研究それ自体への貢献ともなるであろう。この点は討論者としてコンファランスに参加したメロニオ教授が強調したところであり、近刊の *Tocqueville Review* に掲載される会議報告に記されるはずである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9件)

- 1) 松本礼二「『トクヴィルの憂鬱』の憂鬱」、『思想』1077号(2014年)、pp.87-106(査読なし)
- 2) 青山瑠妙「中国の広報文化戦略」、『三田評論』159巻(2012年)、pp.28-34(査読なし)
- 3) 青山瑠妙“Chinese Diplomacy toward Neighboring Countries,” *Journal of Contemporary China Studies*, vol.2-n.2, pp.73-79(査読あり)
- 4) 青山瑠妙「防衛的、積極的、そして攻撃的パブリック・ディプロマシー」、『国際問題』563号(2014年)、pp.15-25(査読なし)
- 5) 青山瑠妙「アジアにおける中国の戦略的展開と日中関係」、『国際問題』568号(2014年)、pp.32-41(査読なし)
- 6) 石井知章「中国現代政治思想の再検討」、『ワセダアジアレビュー』17号(2015年)、pp.81-85(査読なし)
- 7) 石井知章“Civil Society? Corporatism?: A Comparative Analysis of Trade Unions in the Relationship between the State and Society in China and Japan,” *Asian Legal Philosophy*, 2-1, pp.23-52(査読あり)
- 8) 石井知章「東亜協同体論におけるマルクス主義の思想的位置」、『政治思想研究』15巻(2015年)、pp.58-80(査読あり)
- 9) 石井知章「根岸信と中国ギルドの研究」

『同文書院記念報』23巻、pp.49-59(査読なし)

〔学会発表〕(計 5件)

- 1) 松本礼二「戦争・軍隊・植民～トクヴィルのアルジェリア論への一視角」, 関西フランス史研究会(2014年1月11日、京都大学)
- 2) 松本礼二 “Two ‘ Liberal ’ Readings of Tocqueville in Japan: Fukuzawa Yukichi and Maruyama Masao,” International Conference: *Tocqueville and East Asia: Reception and Relevance* (9/26/2015、早稲田大学)
- 3) 渡辺浩 “The French, Meiji, and Chinese Revolutions in the Conceptual Framework of Tocqueville,” International Conference: *Tocqueville and East Asia: Reception and Relevance* (9/26/2015、早稲田大学)
- 4) 青山瑠妙「習近平体制下の中国対外関係」, 日本現代中国学会(10/25/2015、同志社大学)
- 5) 石井知章「現代中国におけるリベラル vs 新左派および毛沢東主義」, 経済学史研究会 228 回例会(12/6/2014、関西学院大学)

〔図書〕(計 7件)

- 1) 西永良成・三浦信孝・坂井セシル編、西永、三浦、坂井、宮下志朗、松本礼二他著『日仏翻訳交流の過去と未来』(大修館書店、2014年)
- 2) Christine Dunn Henderson (ed.), E. Nolla, S.J. Green, J.T. Schleifer, J. Jennings, J. Ceaser, C.H. Zuckert, A.S. Kahan, H.C. Mansfield, B. Allen, J.-L. Benoit, C.B. Cheryl, F. Sabetti, E. Aguilar, A. Craiutu and Reiji Matsumoto, *Tocqueville's Voyages: The Evolution of His Ideas and Their Journey beyond His Time* (Liberty Fund, 2014)
- 3) 林忠行・村上勇介・仙石学『ネオ・リベラリズムの実践現場 - 中東欧、ロシアとラテンアメリカ』(京都大学学術出版、2013年)
- 4) Horst Albach & Tomoki Waragai (ed.), *Business Economics in Japan and Germany* (Indicium Verlag, 2015)
- 5) 青山瑠妙・天児慧『超大国・中国の行方 2、外交と国際秩序』(東京大学出版会、2015年)
- 6) 石井知章・緒方康(編著)『中国リベラリズムの政治空間』(勉成出版、2015年)
- 7) 石井知章(編)『現代中国のリベラリズム思潮』(藤原書店、2015年)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

松本礼二 (Matsumoto, Reiji)  
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授  
研究者番号：30013022

### (2) 研究分担者

渡辺浩 (Watanabe, Hiroshi)  
法政大学・法学部・教授  
研究者番号：10009821

藁谷友紀 (Waragai, Tomoki)  
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授  
研究者番号：20267462

青山瑠妙 (Aoyama, Rumi)  
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授  
研究者番号：20329022

林忠行 (Hayashi, Tadayuki)  
京都女子大学・学長  
研究者番号：90156448

石井知章 (Ishii, Tomoaki)  
明治大学・商学部・教授  
研究者番号：90350264

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：